

北極圏旅行記 2017-2018 冬 (12)

～12/28 オーロラとこと座～

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

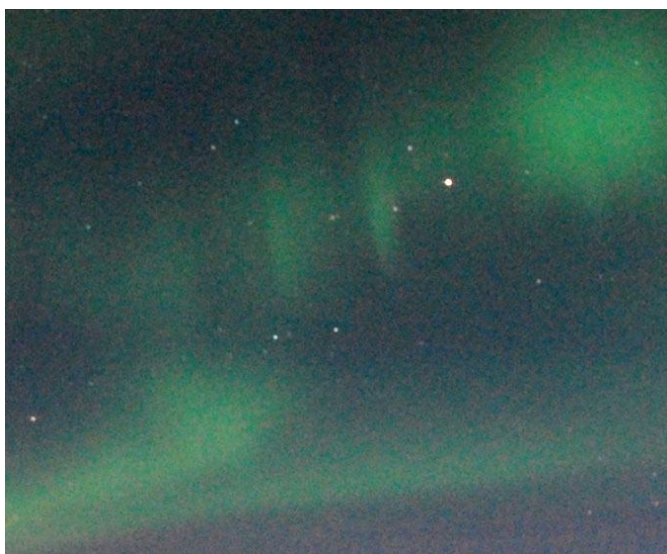
この日のオーロラは、月明の中、観望条件はあまり良くなかった。それでも数回にわたって、非常に強い「タイプEのオーロラ」が見られた。



下層が桃色のオーロラ
上のオーロラはアルボテン州・マスグンス村
2017.12.28 © Tamika

(2 ページ目に拡大写真)

「タイプEのオーロラ」は、バンド・オーロラの下端が桃色に染まり、それが激しく動いている状態のものだ。これは、太陽風のエネルギー（荷電粒子）が大きくなり、大気圏のかなり低い高度まで侵入している証拠である。この日に見た「タイプEのオーロラ」は「揺れている」というよりは、「明滅している」という表現のほうが正しいかも知れない。



オーロラの中にこと座が浮かんでいた。輝星はベガ（織姫）である。さながら、「緑のベールをまとった織姫」というところだろうか。



その後もオーロラは強弱を繰り返しながら、千変万化な様相を見せていた。「同じ形のオーロラは二度と現れない」というのは、本当だと思う。



この晩のオーロラで不思議な光景が見られた。オーロラアーク（弧）の一部が千切れて、上に向かってフッと上がったと思うと、更にその上にもう一つのバンド・オーロラが現れた。こういう現象は初めて見た。



観望も終盤になると、観測地がオーロラ・オーバルの西端にさしかかる。今度はオーロラ・アークの左側（西側）が活発になってくる。レイ（磁力線の縦筋）を伴って、ゆっくり揺れていた。美しかった。

